

越谷市立大袋小学校 令和7年度学校経営方針

★ 学校経営方針の礎

「学校は児童の尊い命と無限の可能性をあずかる場所！」

- ①安全で安心な教育環境の充実に努める。
- ②児童一人一人の実態を把握し、伸ばす指導に努める。
- ③児童も教師も凡事徹底(当たり前のことを徹底して行う)に努める。
「時を守り(けじめのある生活)、場を清め(整理整頓、清掃)、礼を正す(挨拶、言葉遣い)」
- ④児童も教師も「主体的・対話的で深い学び」を実現する。
- ⑤「自分大好き」「友達大好き」「学校・地域大好き」な児童の育成に努める。(自己肯定感の涵養)
- ⑥先生の元気を児童の元気につなげる。(時間外在校等時間:月 45 時間以内、年 360 時間以内)。
- ⑦児童も教師も保護者・地域もみんなが幸せな学校づくりに努める。

1 学校教育目標

「健康を笑顔に表す白梅の子」

たくましい子(体育) おもいやる子(徳育) かしこい子(知育)

2 目指す学校像

「汗と笑顔が光り、アイデアあふれる学校」

～ 汗いっぱい(体育)、笑顔いっぱい(徳育)、知恵いっぱい(知育) ～

3 目指す教師像

「熱意と創意と誠意で勝負！(ONE TEAM 大袋小 Teachers！)」

- ・子は親(教師)の鏡です！(教師自ら範を示す:【凡事徹底(時を守り、場を清め、礼を正す)】)
- ・児童のよさを見つけ、心をこめてほめ、粘り強く指導する！
- ・基礎基本の徹底と創意を生かした魅力ある授業で勝負する！
- ・誠意はスピード！親身で迅速に対応する！(児童の問題行動、保護者への対応等)
- ・心身ともに健康である教師！(健康第一、笑顔が一番)

4 目指す児童の姿

①たくましい子(汗いっぱい)

「体育授業、教科外体育(外遊びの充実)を通じて、心と体の一体化を図り、運動が好きな子」

②思いやりのある子(笑顔いっぱい)

「相手の立場に立って物事を考え、自分の学年とチームの一員としての自覚を持ってがんばる子」

③かしこい子(知恵いっぱい)

「自ら気づき、考え、実行する子」

5 学校課題への取組

1 主体性を育む

- ①主体的に行動できる児童を育てるために、「自ら気づき、考え、行動できる」活動を仕掛け、見届け、称賛する。
- ②児童の質問に対して、まず自分はどうしたらよいかを問う。(即答を避け、考えさせる。)
- ③主体的に活動できるように発達段階に応じて時計を見て行動できるようにする。
- ④先を見通して行動できるように目指すゴールを明確にする。(1時間や単元、学期末、学年末にあるべき姿)
- ⑤教師主導の授業から、児童主体の学習活動へ

・教師の話す時間を短く！授業の導入における「課題設定」と「見通し」、終末における「振り返り」の意識化

2 学級経営の充実

- ①傾聴を全ての出発点とし、児童一人一人の小さな伸びや良さを認め育む。
- ②集団規律、学習規律を徹底する。
 - ・聞く姿勢ができてから、話しを始めることを徹底する。(黙るまで待つ)
 - ・自由に質問させない。手を挙げて指名されたら質問する。(答える)
- ③学級や学年の中で児童一人一人に役割を持たせ、チャレンジさせる。(チームの一員としての自覚を持たせる。)
- ④児童の心に響く「叱り方・褒め方」を実践する。(叱った後は必ずフォローし、できたことを見逃さず称賛する。)
- ⑤自習がしっかりできる児童を育てる。(課題に集中して、しゃべらず、ふざけず、出歩かず)
- ⑥短所をいじって平均化するより、長所を伸ばして武器とする。(イチロー育ての親、仰木 彬オリックス元監督)
- ⑦保護者の気持ちを受け止めるとともに、児童のよさと課題を共有する。(家庭とともに、子供を育てる！)
- ⑧QU 研修や構成的グループエンカウンター研修を生かして学級経営の充実を図る。

3 体力向上 (たくましい子)

- ①運動の特性に触れた楽しさや喜びを味わわせる体育授業を実践する。(運動好きな子を育てる。)
- ②発達段階に応じて重点指導内容を継続的に指導する。(低・中・高では伸びるものが異なる。)
- ③業間休み及び昼休みの外遊びを励行する。(白梅っ子タイムの活用)
- ④集う楽しさを味わわせる体育的活動を推進する。(行事や特別活動の活用)
- ⑤教科体育、教科外体育での場を工夫する。(魅力的な場があれば、自然に体を動かしたくなる。)
- ⑥「早寝・早起き・朝ごはん」を推進する。

4 豊かな心づくり (おもいやる子)

- ①心に響く道徳授業の充実と確実な実施に努める。
- ②児童一人一人のよさを見つけ、認め、伸ばす指導に努める。(自分のよさ、友達のよさに気づけるように)
- ③集団達成の喜びを味わわせる取組を推進する。(学校行事の活用)
- ④人のためになることを考える教育活動を推進する。(掃除・挨拶運動・委員会活動・JRC など)
- ⑤地域交流の充実と地域人材の活用を図る。
- ⑥読書活動の充実を図る。
- ⑦QU を生かして学級経営の充実を図る。(構成的グループエンカウンターの活用)

5 学力向上（かしこい子）

- ①主体的、対話的で深い学びを踏まえた授業を実践する。（授業における8つのポイントを基に）
- ②教科の見方・考え方を生かした授業を実践する。（教科等の特性に触れた授業）
- ③小中一貫教育の取組及び学校課題研修を生かした魅力ある授業を実践する。
- ④発達段階に応じた対話的活動（会話から対話へ）・ICT活用・振り返り活動の充実を図る。
- ⑤個に応じた指導の充実を図る。（個別指導、繰り返し指導、発展的な課題、AIドリルの活用、プレテストの活用など）【基礎基本の徹底】
- ⑥教科横断的な授業の充実を図る。（カリキュラムマネジメント）
- ⑦教科担任制・交換授業（道徳及び各教科単元ごと）をとおして、授業の質の向上を図る。【原則3年生以上】

6 生徒指導体制の充実

- ①意図的、計画的、継続的な生徒指導委員会を開催する。（月1回・臨時）
- ②学校のきまりの統一化と発達段階に応じた共通指導を徹底する。
- ③きまりの必要性を発達段階に応じて理解させ、実践化を図る。
- ④教科担任制・交換授業により、複数の目で子供を見つめる指導を行う。（学年生徒指導の充実）
- ⑤学校生活アンケートを活用し、いじめ問題の解消に努める。
- ⑥報告・連絡・相談の徹底

7 不登校（登校しぶり）の解消

- ①わくわく感のある学校（学年・学級）生活を保障する。
 - ・学ぶ喜びを味わわせる。
 - ・集団達成の喜びを味わわせる。
 - ・汗をかき、やり遂げた達成感を味わわせる。
- ②児童の自己存在感、自己有用感、自己肯定感を育む。（褒め合い、励まし合い、認め合い）
- ③電話や家庭訪問、オンライン授業、SSR活用等による学校・家庭・児童を「つなぐ」取組を行う。（粘り強く）

8 特別支援教育の充実

- ①特別支援学級担任体験研修を実施する。（特別支援学級に対する正しい理解のための一方策）
- ②個別のBプランによるPDCAを実践する。
- ③教育センター等専門機関との連携を図り、組織的に対応する。（特別支援コーディネーターを中心に）

9 働き方改革

- ①時間外在校時間月45時間以内・年360時間以内を目指す！（月80時間超えは過労死ライン！絶対ダメ！）
- ②仕事の先を見通し、「ふれあいデー」を確実に実施する。
- ③限られた時間で何ができるかを考え、無駄を省き（労力を費やす割に成果に現れないもの）仕事の優先順序をつけ時短術を身に付ける。
- ④出勤ボードを活用し、個人や学年でタイムマネジメントを行う。
- ⑤放課後の児童指導（硬筆・書き初め練習等）は原則禁止、授業で勝負する！
- ⑥日報の積極的活用、会議・研修は量（時間）より質（ポイントを絞って）を意識して行う。
- ⑦行事や組織等の見直しを常に図り、改善策及び「働きがい」を検討する。（運営委員会、職員会議、衛生推進委員会等）